

29 2042

軍極秘

哨機密第

一號

△二四

功績調査部長殿

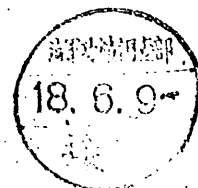
昭和十八年五月二十八日

(於掛塚燈台ノ二四二度九埋)

戰鬪詳報

✓ 第一〇二號哨戒艇

六月七日提出



# 戦闘詳報

## 一 形勢

五月下旬ヨリ敵潜水艦ハ頓ニ遠洲灘方面ニ出沒附近航行中味方船舶ニ對シ雷撃ヲ加ヘツアル現狀下ニ於テ五月三十一日〇三〇。横海防機密第一一三〇〇番電ニ依リ七五二八船團(一)番船天城丸(重要船舶名古簿)ニ番船三星丸(八幡行)ヲ護衛横濱發嚴重ナル警戒戒裡ニ西行同日一五二三掛塚燈台沖ニテ一)番船天城丸ヲ解別ニ番船三星丸ヲ護衛外方一五〇。米ヲ警戒戒中同一五五四石燈台ニ四二度九裡ニテ本艇左舷後方ニ〇〇〇。米ニ雷跡一ヲ認ム

當時天候ハ曇天北西風五米 波浪ニ、ウネリ南西三、視界稍々良好アリ

## 二 計畫

本艇ハ探信儀聽音機ヲキ爲視覚ニ依ル外ヲ爲最初雷跡

月	日	時	刻	記	事
五	二八	一五	五四	雷跡一左舷後方ニ。米ニ發見配置就ク	
				前進一杯(十六節)爆雷戰用意 船團ヲ	
				陸岸近ク避退セシム	
		一五	五六	南四五度東ニ變針	
		一五	五七	戰鬪 爆雷戰	
				十六節 迴轉整定	
		一五	五八	投射始ム(投射數六個)	

三經過ノ概要

一。米トス  
 二。及航敵潛、射突ヲ本艇ノニ。米内外トシ向中心法ニ依ル  
 次ニ潛望鏡發見セル爲コレニ向ヒタリ  
 爆雷、調定深度ハ最初四五米及一五。米交互ニ四發次ニ

一七〇二		一六四〇	一六二三	自一六二〇	一六〇七	一六〇五	一六〇三	〃	〃	一六〇〇	
三星丸ニ追躡シ指示ヲ與ヘ先艦センメ再ヒ	特潜和美丸タルコト判明セリ	北五〇度西八〇〇米特設驅潜艇ヲ認め(後刻)	十五節廻轉整定	速力十五節トラス	針路適宜附近制圧ス	投射止メ(投射数合計十一個効果不明)	投射待テ	投射始ム(投射数五個)	面舵一杯南六五度西ニ変針	右正横約三〇〇米ニ潜望鏡發見セルモ五六秒	投射待ツ

月日	時刻	時刻	記
		一七二五	現錫ニ引返ス
		一八〇五	特潜和美丸ト協力制圧ス 船團ヲ追逐ス
月日	時刻	船名 (通報先)	発
五二八	一六〇七	船團	一〇一哨
	一六一〇	横須賀防衛隊 指揮官	本
		横須賀参謀長	文
		伊勢司令	連絡方法
		伊勢参謀長	左舷後方ニ魚雷航路見ユ
		伊勢参謀長	機密第三一六一〇番電
		伊勢参謀長	掛塚灯台、三四二度九理
		伊勢参謀長	潜望鏡發見
		伊勢参謀長	我制圧中一六〇〇
		伊勢参謀長	—
		東京海軍部 指揮官	
		東京海軍部 指揮官	

今 靖 報 告

本

文

連絡方法

記

事

五二八	一七一五	伊勢湾B指揮官	一〇哨艇長	伊勢湾部隊来着迄極力敵	
五二八	一七〇二	三星丸	一〇哨	我潜水鏡發見爆雷攻撃子ヲ 右ニ効果不明其ノ船獨自 速力ヲ以テ先航セリ	フ
		伊勢防司令 館空司令 能野灘部隊 指揮官	艇長	我中に爆雷残量九個 而ト他一隻ハ神戶ニ先行セシム	
		橫濱防隊 指揮官	一〇哨	雷跡續テ望望鏡距離ニ〇〇米 ニ發見爆雷攻撃子(十個)効果不明 船團異状ナシ一隻ハ目的地名古屋	
五二八	一六三〇	伊勢防隊 指揮官	機密第三一六三番電	七五三八船團(三隻)護衛中一五五五	連絡方法

五月二十八	五月二十八	五月二十八	五月二十八	五月二十八	月日時刻
一八二〇	一八〇五	一七三二	一七二五	一〇一〇	時刻
横濱参謀 紀伊防司令 伊勢湾部隊 指揮官	一〇一〇	特潜 和美丸	特潜 和美丸	特潜 和美丸	先(通報先)
艇長	特潜 和美丸	一〇一〇	特潜 和美丸	特潜 和美丸	發
機密第三八二番電 一和美丸引継先行船追跡 二紀伊防ニ於テ爆雷十個補充給 シタシ御了記ヲ乞フ	我船團ヲ追躡ス後ヲ願ヒス	我現場ニ急行シ協力ス	一六〇掛塚灯台ニ西ニ夜九裡ニ於テ 雷跡ヲ望望鏡發見爆雷攻 撃ヲテセシモ 果不明 我制圧中	潜水艦ヲ制圧セヨ	本文
	テ	テ	テ	テ	運行方法

月日時刻  
五三〇一八〇八

宛(通報先)

發

本

文

連絡方法

一〇一哨艇長  
横海防A  
伊勢湾B  
改警参謀長  
大本營海軍参謀部第部長  
東京湾指揮官  
熊野灘指揮官

横鎮長官

機密第三〇三〇番電  
二十日午石天龍河口南西方海面ニ出現セル敵潜水艦攻撃ニ有効ナリシモノト認ム  
第一〇號哨艇が好々船團護衛ノ任ヲ達成スルト共ニ敵潜水艦ニ對シ有効反撃ヲ施シ伊勢湾部隊ノ協同攻撃ニ依リ之ヲ撃滅シ得ルハ日夜作戰ニ盡遂ニタル賜ニシテ指揮官以下將兵ノ立平勞ヲ多トス

四成果

本艇ハ横海防機密第三〇一〇番電ニ依リ現場ニ乘着セシ伊勢湾防備隊所屬艦艇ニ引継キ船團護衛任務ニ復セルガ右艦艇ハ翌日ニ



十九日同地点附近ニ最微速ニテ西方ニ移動シツル多量ノ重油ヲ發見確實ニシレテ擊沈シ本艇攻撃ハ有効ナリシモト認メラレタリ

五、我が兵力ノ現状

兵器 機関 異狀ナシ

六、功績

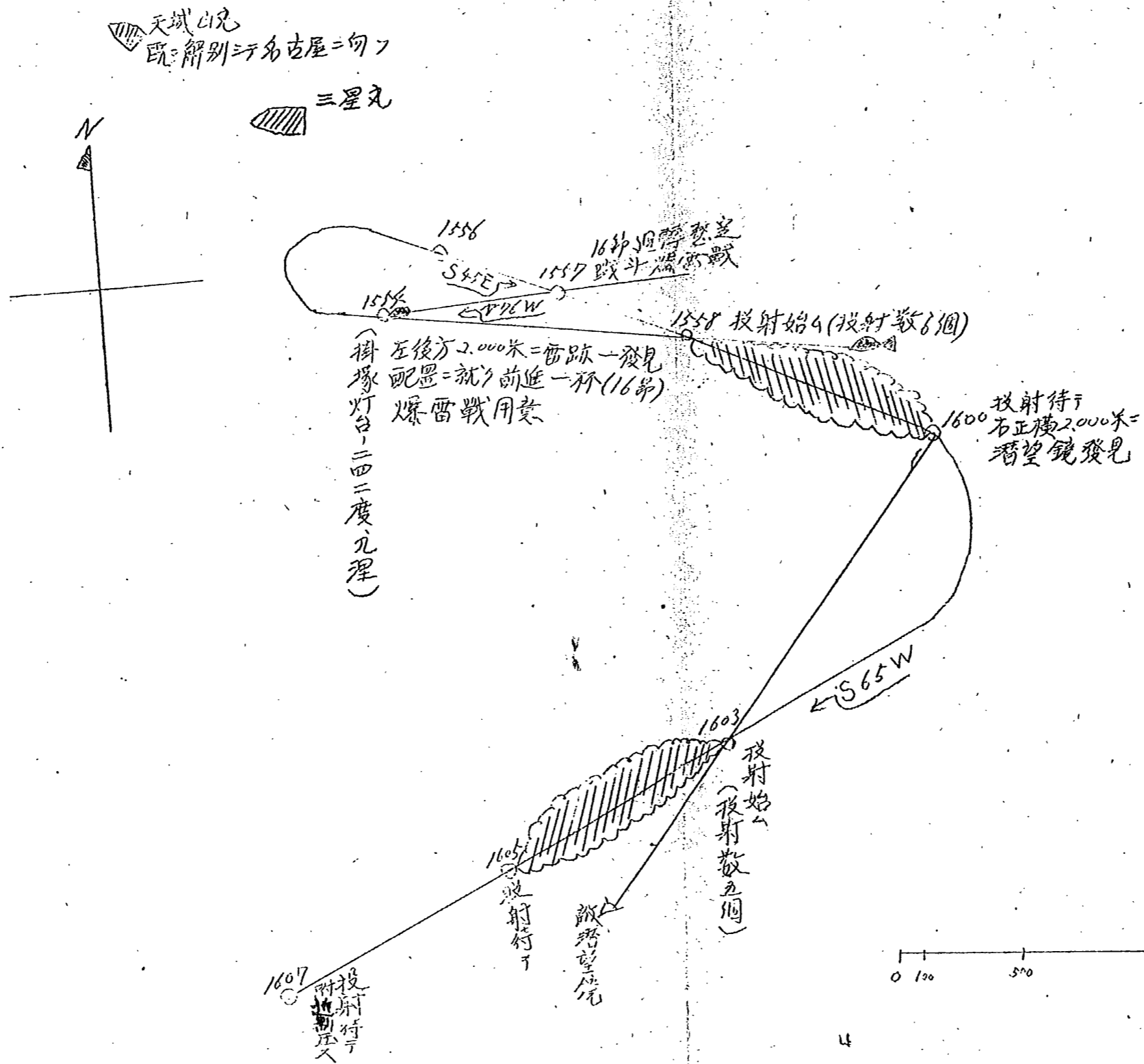
護衛ノ任ヲ完シ伊勢灣部隊ヲ敵潜水艦艇ヲ誘引シ爾後ノ作戰行動ニ寄與スルヲ大ナリ依テ功績顯著ナリト認ム

七、所見

ハ對潛警戒ニ見張最モ緊要ナルハ論ヲ俟タルモ本艇ノ如ク探信儀聽音機ヲ有サル艦艇ニ在リテハ見張ニ依ル外ナシ對潛攻撃ニ視覚ニ依リ發見セバ先ツ一撃ヲ加ヘル後水中測的兵器ヲ活用シ徹底的ニ捕撈攻撃セバ擊沈容易ナル可キモ本艇ニハ該兵器ノ裝備無シ如ク測的機裝備モ無ク投射時機決

定ハ全ク感一依ル外ナシ。今回ハ斯ル悪條件下ニ有効な反撃ヲ加ヘ得タルハ一ニ發見ノ早期アリト判断及感ハ幸ニ正鵠ヲ得タルモノニシテ將來モ今回ノ如ク行ハトハ斷言シ得ズ。速ニ該諸兵器ノ裝備ヲ要ス。

(二) 船團護衛ニ少クモ護衛艦ハ二隻以上トルヲ要ス。會敵ノ場合一隻ハ直ニ之ヲ攻撃他一隻ハ船團ヲ安全ナル地域ニ誘引スルヲ要ス。夕敵潛ハ一隻ハ限ラズ或ハ一隻ニテ陽動シ他一隻ニテ攻撃スル場合ヲ想像シ得。且ツ前大戦中斯ル例アリタルコトヲ聞ク。護衛艦一隻ノ場合艦長ノ焦燥ノ念ニカラルル事實ニ大アリ。



爆雷戦闘合戦圖  
 (於掛塚燈台二四二度九澤)  
 昭和十八年五月三十一日至一五五七

五月二十八日 爆雷戦闘		第一〇二號哨戒艇兵器消耗調査表 昭和十八年五月三十日	
兵器別	種類	消耗数量	残額
爆雷	八八式爆雷	二	三
雷	英式爆雷	九	七
		記	
		事	

五月二十八日 爆雷戦闘		第一〇二號哨戒艇燃料費調査表 昭和十八年五月三十日	
燃料種類	戦闘中消費額	残額	記
重油	五・三噸	二・三九噸	満載量三・八噸

(終)